

# 「住まう喜びを感じるまち 南魚沼市」を考える

多世代の市民全員が輝き 健康で快適に暮らせ 若者の期待に応えられるまち

【問合せ・申込み】 U&Iときめき課 ☎773-6659

## 南魚沼市で輝くひと（第11回） さとうひろゆき 佐藤浩之さん

今回は、水尾で(有)エル・グリーンの代表を務める佐藤浩之さんにお話を伺いました。



Q. 移住するまでの経歴を簡単に教えてください。

A. 出身は、千葉県です。植物に関わる仕事をしたかったので、大学では農学部で園芸を学びました。卒業後に東京の会社で造園などを手がけ、地方への転勤の際、ゆっくりとした時間の中で過ごすことに魅力を感じるようになりました。自然の中で過ごせることと母親の実家のこともあり、水尾地区へやってきました。

Q. 現在は、どんな仕事をされていますか。

A. 造園、土木、ガーデニングの設計や施工管理の会社を運営しています。また、農場で八色スイカの栽培や、育てたぶどうをワインなどに加工し、販売しています。あとは、樹木医（樹木の診断・治療、保護育成を行う専門家）として、上越市の高田公園の桜の木の管理に携わったりと、植物が相手の仕事をしています。

Q. 特別な「こだわり」があれば教えてください。

A. 「思いっきり、やってみる！」ですね。いつまでも悩んでいないで、やってみてフィードバックを繰り返す。その中で辞めるも続けるも判断すればいいんですから。効率化や生産性を常に「考える」ことも大切です。

Q. Iターンしてきたときに不便なことはありましたか。

A. 消雪パイプが完備しているので、雪で不便に思うことはなかったですね。山登りやスキー、海に潜ることが趣味で、周辺の自然を思いっきり遊び、存分に楽しんでいるので、遊ぶところにも困りませんでした。

Q. 今後の「夢」を教えてください。

A. 会社の経営を息子に継ぎ、白ワイン作りに挑戦したいです。

Q. 南魚沼で暮らそうと考えている人にアドバイスをお願いします。

A. 都会にばかりしがみついでいないで、1回来てみれば、田舎のよさや田舎ならではの遊び方など、素晴らしいと感じることがたくさんあると思います。ぜひ、悩んでいないで「来てみる」ことをおすすめします！



## 第5回「みらいのしごとシリーズ」セミナーを開催しました

8月27日(月)に、一般社団法人南魚沼市まちづくり推進機構（MMDO）の主催で「シェアリングエコノミーの動向を探る」をテーマに、講演、パネルディスカッションが行われ、29人の参加がありました。（シェアリングエコノミーとは、物・場所・サービス・能力などの資源を多くの人と共有・交換して利用する社会的な仕組み）



第1部では、内閣官房企画官の高田裕介さんから、提供者と利用者のマッチングにより地域活性につながった事例を交えながら、シェアリングエコノミーの有効性を学びました。

第2部では、(株)キッカケの代表取締役上村公彦さんから、特技を生かしたい人と習いたい親子を結ぶアプリ「キッカケ」を紹介いただきました。

第3部では、シェアリングエコノミーを利用することにより子どもたちのまなびの場が広がる可能性について、愛・南魚沼みらい塾の倉田智浩理事に講話いただきました。多くの市民から参加いただき、地方創生を考えるきっかけとなりました。